

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点 (短期経営目標)
<p>【教育目標】 「ふるさとを愛し、多様な人とつながりながら学び、探究し続ける子どもの育成」</p> <p>【めざす生徒像】 (1) 主体的に学び続ける子ども (2) 人を思いやり仲間と共に高め合える子ども (3) 粘り強く挑戦し続ける子ども</p> <p>【重点課題】(社会的自立につなぐ教育) (1) 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実を図り、「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けた授業改善の推進と学力の向上 (2) 「探究的な学び」を通じて課題解決能力をはぐくむ教育の推進 (3) つながる力を生かした豊かな人間性の育成と不登校の解消・未然防止</p>	<p>【授業改善と学力の向上】 ○教員の旧態依然とした学力観や指導観を、外部講師による研修や研究授業、校内研究組織の充実を図り、時代や生徒の実態に合わせて転換できたことにより、一つひとつの授業が活性化し、生徒の主体的・協働的な学びのスタイルを校内に浸透させることができた。 △「総合的な学習の時間」だけでなく、全教科、全教育活動において教師の適切な支援と指導支援による「探究的な学び」のスパイラルを大切にする実践的・体系的取組を展開する必要がある。 △家庭学習の状況に不十分さを残す中で、ICTを活用して、将来にわたって学び続ける生徒を育成するための取組を組織的に展開していく必要がある。</p> <p>【豊かな人間性の育成と不登校の解消・未然防止】 ○本校の課題である自己肯定感の低さや心理的安全性の意識を高めていくために、「心を広げるコミュニケーション講座」として、講演会の開催や生徒会活動の活性化、平田オリザ氏によるワークショップ等を実施し、キャリア発達を促進する面からも効果的な取組となった。 ○悩みを抱えた多くの不登校及び不適応生徒も、本校教員との良好な人間関係の上に立った個別支援、校内フリースクールでの学びと関わり、キャリア教育の重点的推進等により、進路実現に向けて自立し卒業することができた。 △一方で進路に関し、高等学校の様態や保護者生徒の価値観そのものの多様化などにより、従前の進路指導の概念では指導困難な側面もある。本質や実態から離れた安易な進路選択が原因で高校入学後の学びが理想と乖離することのないよう、校内指導のみならず、社会全体で誰もが社会的・職業的自立を果たせるような抜本的な対策を講じていく必要がある。</p>	<p>【生徒の社会的自立に向けた総合的な教育の推進】 (1) 心理的安全性を確保するための居場所づくりと学級経営 (2) 教員と生徒、生徒同士の結びつきを強化する取組の充実 (3) 複数の相談窓口を設置し、生徒の悩みやSOSを迅速且つ的確に把握できる体制構築による組織的指導の充実 (4) 将来的孤立の未然防止に資する「つながる力」の育成を意識した教育活動の展開 (5) 卒業後の社会的自立に繋げるための、保護者、地域、関係機関との連携のさらなる強化</p> <p>【デジタル環境の整備による教育の充実】 (1) 円滑な端末移行に向けた校内システムの再構築 (2) 端末を活用した、より充実した授業づくりと探究的学びの実践 (3) コンピュータリテラシー・モラル教育の推進 (4) 校務のデジタル化の推進による、業務軽減、情報共有の効率化、ペーパーレス等の推進等、学校業務DXに係る改革の断行 (5) 不登校への支援及び校内フリースクール活用における丁寧な指導とデジタル活用の推進</p>

評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題 (自己評価)	学校関係者評価
<p>学校教育指導の重点</p>	<p>◇認知能力と非認知能力を一体的に伸ばさせる学力向上・授業づくり</p> <p>(1) 「協働的な学び」を充実させるための授業改善とICT機器のさらなる活用</p> <p>(2) 個別指導の充実と学習機会の場の提供と評価</p> <p>(3) 授業とつなげる家庭学習の工夫</p>	<p>◇「協働的な学び」をとおして主体的に他者とかかわり、多様な考え方を自らのスパイラルな思考のプロセスをとおして、答えを導き表現できる力を育む探究的な授業への移行</p> <p>◇共同編集や他者参照など、タブレットやICT機器を効果的に活用した授業展開の工夫</p> <p>◇「主体的・対話的で深い学び」「探究的な学び」を実現する授業づくりについての授業研究会と効果的な研修会の開催</p> <p>◇学びのパスポートの分析を活用した、個別最適化に特化した丁寧な指導の展開</p> <p>◇グローバル人材の育成と英語力の向上</p> <p>◇単元を括りにした学習の定着と、先行学習等、授業と家庭学習を連動させ、自ら主体的に学ぶことのできる力を育む学習環境の整備</p>	<p>○複線型授業や自由進度学習が複数教科の授業に多く取り入れられるようになり、一斉授業では得られない気づきや知識を共有しながら学習を進め、本校の学力向上に大きく寄与した。</p> <p>○円滑なChromebookへの移行とともに、さらに学校や家庭でのICT活用が活性化し、授業と家庭学習の関連性や、生徒への指導援助の密度が高まり、学習環境が大きく好転した。</p> <p>○公開授業、研究授業(ChocoUp等)、先進校視察、教科部会などを定期開催し、効率的且つ効果的な授業改善が進んだ。</p> <p>△学校全体のカリキュラムマネジメントは一定成果があったが、実態に即して柔軟に展開する横断的学び、教科での学びを生活や社会に繋げる教育課程や授業改善などには課題が残った。</p>	<p>○授業参観では、昔の授業とは全く違う光景が日常になっていた。一斉型や決められたグループではなく、自分の学びに合った形態でそれぞれが生き生きと学んでいたことに衝撃を受けた。</p> <p>△端末を使って授業や家庭学習の場面で、調べものや情報共有ができ大変良い。家庭学習課題等の提出物もネットで行えるが、一方で便利になりすぎると、学校に行く意味を見失う生徒が出てこないかが心配である。</p>

<p>保幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として</p>	<p>生徒指導</p> <p>◇発達支持的生徒指導の展開 (1) 教師と生徒、生徒同士のつながりを重点に置いた生徒指導の展開と居場所づくり</p> <p>(2) 峰山学園全体で取り組む、主体的活動の活性化</p>	<p>◇自己指導能力の育成を意識した発達支援的な「関わり」を重視した学級経営</p> <p>◇生徒の思いに即応できる相談窓口の複数設置と面談等の充実、いじめの早期発見・早期対応・未然防止</p> <p>◇不登校・不適応傾向生徒に係る課題の解決に向けた、教育資源の有効活用、校内フリースクールの充実、ICT を活用した支援等、教育相談体制の強化</p> <p>◇主体的活動と活動の積極的な外部発信</p> <p>◇峰山学園の児童・生徒の協働による一体感の感得と、学年・学校園の枠を越えた活動</p> <p>◇学校のきまり討議や生活向上の取組展開</p>	<p>△生徒の主体的活動を促す活動を進めたが、指導側に従前の生徒指導の概念が根強く残っている。時代に即した教師の指導観の変容が課題である。</p> <p>○校内フリースクール体制、特別支援教育の強化、相談窓口の充実など、個別の生徒をきめ細かく支援するためのサポートスタッフを効果的に活用し、組織で対応できる体制の強化を図った。</p> <p>○課題であった「生徒会活動の強化」を実現するため、峰山学園内の児童会・生徒会合同の取組を活性化させた。また、それぞれの学びを学年を超えて共有した「峰中のうねりづくり」の一環として、「みねちゅうキャリアデザインフォーラム」を開催し、大成功を収めた。</p>	<p>○生徒の主体的な態度を伸ばし、達成感、自己肯定感、有用感等を感じられる取組が、年間を通じて展開されており、その効果が表れてきた。</p> <p>△ICT 活用により、不登校や学校不適応傾向の生徒の学習保障が進んできているが、その行き届いた環境に慣れ過ぎぬよう留意が必要。</p> <p>○生徒会活動が前面に押し出され、全校の温かい所属感が感じられる行事となった。</p>
<p>健康・安全</p>	<p>◇保健教育の充実と管理の徹底</p> <p>◇安全意識の向上の取組</p> <p>◇部活動の充実と体力の向上</p>	<p>◇命の大切さや自他の心身の健康安全への理解を図る取組の充実、防災教育の充実</p> <p>◇継続的な交通安全指導と意識の向上を図る取組の展開</p>	<p>○府災害時学校支援チーム員として研修を修了した教員を中心とした防災教育や、警察・消防機関から講師を招いて実施した訓練などを充実させた。</p> <p>○生徒会本部を中心に、校外での交通安全啓発運動を積極的に展開した。</p>	<p>○学校外でも交通安全啓発を行うことはとても良いことであり、道交法改正後の意識付けのためにも、ぜひ継続してほしい。</p>
<p>人権教育</p>	<p>◇生徒の集団の中での人間関係づくり</p> <p>◇教職員の人権意識の高揚</p>	<p>◇全教育活動における、互いを理解・尊重しながら信頼で結ばれ成長し合える人間関係の形成、自尊感情の育成、共感性の涵養</p> <p>◇同和教育の成果と手法への評価を踏まえた継承と活用、あらゆる人権問題についての研修の推進</p> <p>◇一人ひとりを大切にする教育の推進とコンプライアンスの堅持のための、望ましい教職員の行動及び指導に係る研修、職場環境の整備の充実及び業務改善の推進</p>	<p>○芸術文化観光専門職大学と連携し、「演劇の手法を用いたコミュニケーションワークショップ」や、キャリア講話、大学施設見学などの直接体験により、人や社会との関わり、自己開発の視点などを学ばせることができた。</p> <p>○年間をとおして人権学習を丁寧に進めるとともに、ネット上の人権侵害について詳しく学び、「峰中ネットポリシー」として、人権尊重を「自分事」と捉える取組を進めた。</p> <p>○危機意識の高揚を図り、生徒の人権を最優先に守るための校内研修を定期的に開催した。</p>	<p>○キャリアデザインプログラムは本当に素晴らしい取組となった。コミュニケーション力を高めていくことは、社会に出ても必要なスキルであり、他者を慮れる人間性を育むことは大変重要である。</p> <p>○自分の言葉で自分の考えを表現、ぶつけ合い、折り合いをつけていくプログラムは、今後もぜひ活性化すべき。</p>
<p>情報活用能力 (学校校務 DX)</p>	<p>◇端末全面更新への円滑な移行と学校におけるデジタル環境の整備による教育の充実</p> <p>(令和7年度京丹後市「学びの革新プロジェクト」研究推進『学校校務DX』パイロット指定)</p>	<p>◇円滑な移行に向けた校内システムの構築と市内への実践事例の普及</p> <p>◇リテラシー・モラル教育の推進</p> <p>◇DX 推進による、業務軽減、情報共有の効率化、ペーパーレス等の推進</p> <p>◇ICT を活用したより充実した授業づくりと探究的学びの実践</p> <p>◇不登校及び校内フリースクール活用における丁寧な指導とデジタル活用の推進</p>	<p>○Google workspace を活用した情報共有システムを構築し、危機意識と即応力を高めることができた。</p> <p>○学校業務における徹底した業務改善を遂行し、ペーパーレス化や情報処理の軽減、オンラインやチャットを活用したプラットフォームの構築による効率的・効果的な業務や指導環境を構築した。</p> <p>○学校における生成 AI の活用について積極的に研究と活用を進め、授業での試行的運用も順調に開始することができた。</p>	<p>○効率化により捻出した時間で、大切なことをじっくりと時間をかけて効果を出す環境づくりは必須である。</p> <p>△生成 AI は大人の業務やプライベートでも普段使いになっている。メリットとデメリットをしっかりと理解して活用させていく必要がある。</p>
<p>次年度に向けた改善の方向性</p>	<p>本年度、年間を通じて展開した「キャリアデザインプログラム」は、生徒会活動を軸とした「主体的活動の活性化」、「自ら学ぼうとする態度の育成」、「ネットに係るスキル・リテラシー・モラルを高め社会貢献へも繋げるコンピテンシーの育成」等を総合的・系統的に展開し、生徒の社会的自立を支援し、心理的安全性を確保するためのプログラムとして設計し実行した。まだまだ課題はあるものの、今年度のこれらの取組により、自己肯定感、確かな学力、主体的態度の習得や感得について、一定の成果が見られてきた。</p> <p>次年度は教育目標のさらなるステップアップを図り、狭い教室のみの学びに終始しない、広い視野、学校ではなく広い社会の価値観、グローバル社会と繋がったフィールドでの教育活動を、継続的・日常的に展開することが本校教育には必要であると感ずる。その遂行のためには、カリキュラムマネジメントの具体的手法を再整理し、シンプル且つ意志統一された目標に向けて躊躇せず進んでいくことが重要である。</p>			<p>○縦の繋がりは大切。異年齢活動を重視したさらなる一貫教育に期待する。</p> <p>△まだまだ学校の様子や子どもたちの様子は地域や保護者に伝わり切っていない。さらなる情報発信や情報共有を望む。</p>